

SIP自動走行システム 市民ダイアログ @小豆島

# 第1期&第2期 SIP-adusの取組み

adus ; Automated driving system for universal service

葛巻 清吾

SIP-adus プログラムダイレクター

2018年12月04日



# INDEX

A vertical image on the left side of the slide showing light trails from a road at night, with yellow and white lights in the foreground and purple and blue lights in the background.

## 0. 自動運転

### 1. 第1期SIP 自動走行システム

- 目標と取り組み領域
- 内容

### 2. 第2期SIP 自動運転（システムとサービスの拡張）

- 概要、目標
- 内容

# 自動運転



## 自動運転と言っても千差万別



使える場所（交通環境）  
使える自然環境  
走るスピード  
半自動運転～全自動運転  
自家用車～移動サービス  
磁気誘導方式～自律センサー式  
などなど……



# 第1期SIP自動走行システム； 目標

- ① 道路交通における事故低減、渋滞削減
- ② 自動走行システムの早期実現と普及
- ③ 高齢者・交通制約者に優しい先進的な公共バスシステムの実現



- ① 2020年までにハイエンドな準自動走行システム (レベル2) の実用化
- ② Next Stepに向けた機能拡張性要件・優先順位の明確化及び実用化の目処づけ

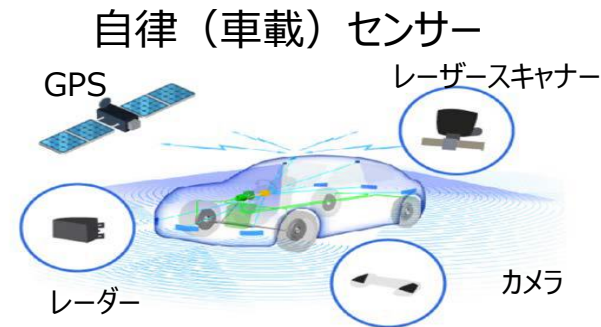


# 第1期SIP自動走行システム； 研究開発領域



高度な

- ・自己位置推定
  - ・周辺環境認知
- が重要



基盤技術

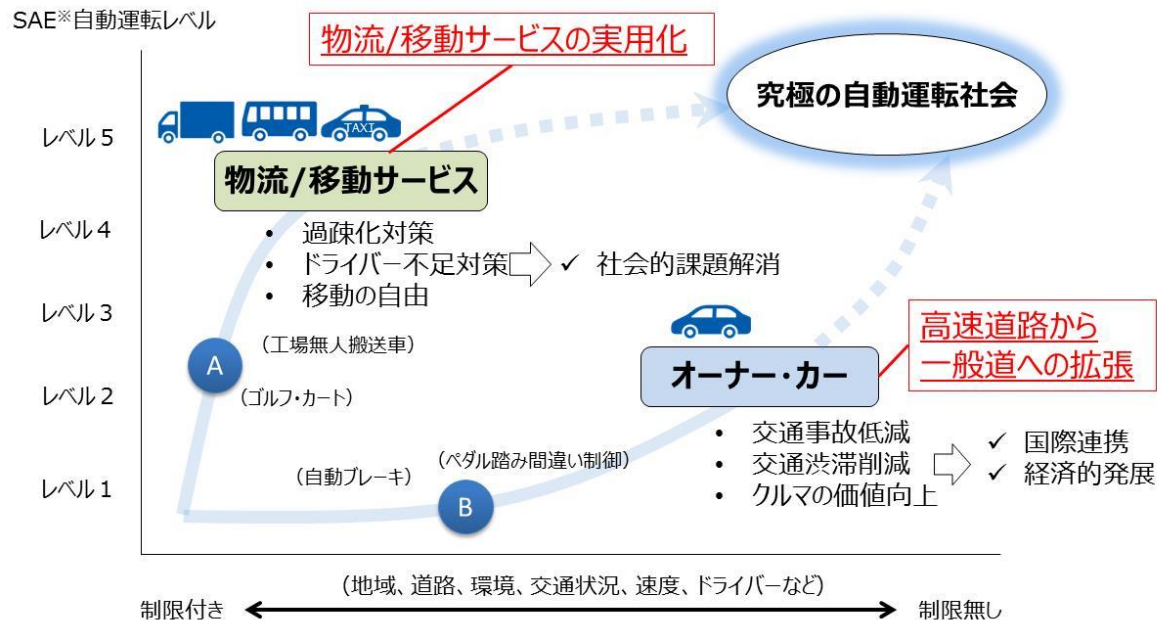
セキュリティ、シミュレーション、データベース etc.

〔赤字：SIPで取り  
組む協調領域〕



# 第2期SIP自動運転； 概要

- ・自動運転の実用化を**高速道路から一般道へ拡張**するとともに
- ・**自動運転技術を活用した物流・移動サービスの実用化**することで  
交通事故低減、交通渋滞の削減、過疎地等での移動手段の確保や物流業界におけるドライバー不足等の社会的課題解決に貢献し、**すべての国民が安全・安心に移動できる社会**を目指す。

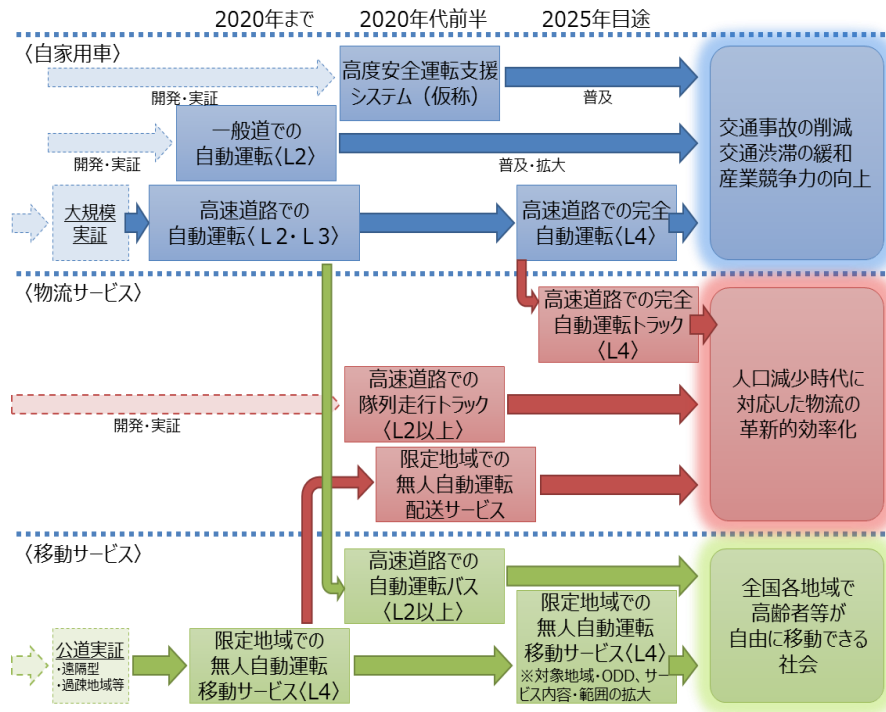


# 第2期SIP自動走行システム； 目標



## 官民ITS構想・ロードマップ°2018

### 〈2025年完全自動運転を見据えた市場化・サービス実現のシナリオ〉



- ・実現に必要な**協調領域**の技術を2023年までに確立
- ・様々な**事業者・自治体**等を巻き込んだ実証実験等で有効性を確認し、**複数の実用化事例**を創出





# 第2期SIP自動走行システム； 出口戦略

実用化に必要なステークホルダー参加型の研究開発により、出口でのスムーズな事業化を目指す

- ① 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の活用
- ② 事業者・地方自治体関係者の事業企画に基づいた実証実験  
等により、民間からの投資及び事業化計画を促進していく

## ■コース



持込車両、試験要員費、  
車両保険費等のコストは  
民間各社負担（マッチングファンド）



地域実証については  
事業者・地方自治体関係者参画に  
よる実証実験

オープンな議論の場を提供し、  
国際標準化及び研究開発を促進  
2019. 10より開始予定

# 実証実験【東京臨海副都心～羽田地区】

## ■ 2019年秋より、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、東京臨海地域で実証実験を開始（日本自動車工業会と連携）

自動運転の早期実用化（高速道・一般道におけるL2～4）に向けて、協調領域の研究開発を推進あわせて、自治体や一般市民等の参画による社会受容性の向上にも取り組み

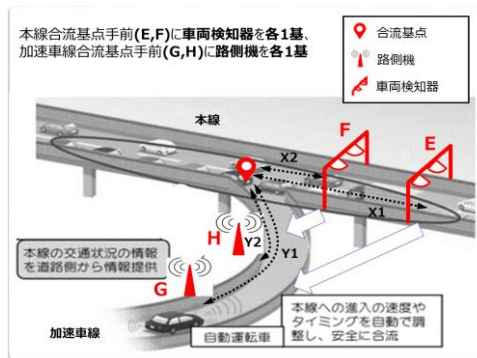
### 〔実証内容（案）〕

#### 信号情報提供



車載カメラで認識し難い環境下でも  
信号の現示及び切替タイミング情報  
を受け、安全かつ円滑な通過を実施

#### 高速道本線合流支援



本線側車両情報提供

#### 公共交通システム（自動運転バス）



自動運転技術を活用した次世代型  
ARTを混流交通下において公道実証

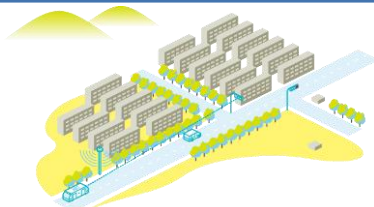
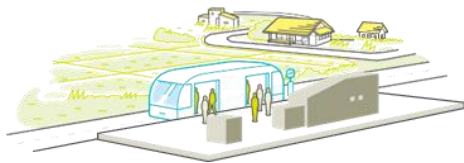
# 実証実験 【地域交通】

■ 過疎地、地方都市等において、事業者、自治体関係者との協働による長期の実証実験により物流サービス・移動サービスに対する自動運転の有効性・事業性を検証

長期的な実証実験を通して、一般市民等の参画による社会受容性の向上にも取り組み、複数の**実用化事例を創出**を目指す

〔実証内容（案）〕

過疎地等地域における移動/物流サービス



高齢者の多い地域や交通不便な地域での移動手段の確保

技術実証



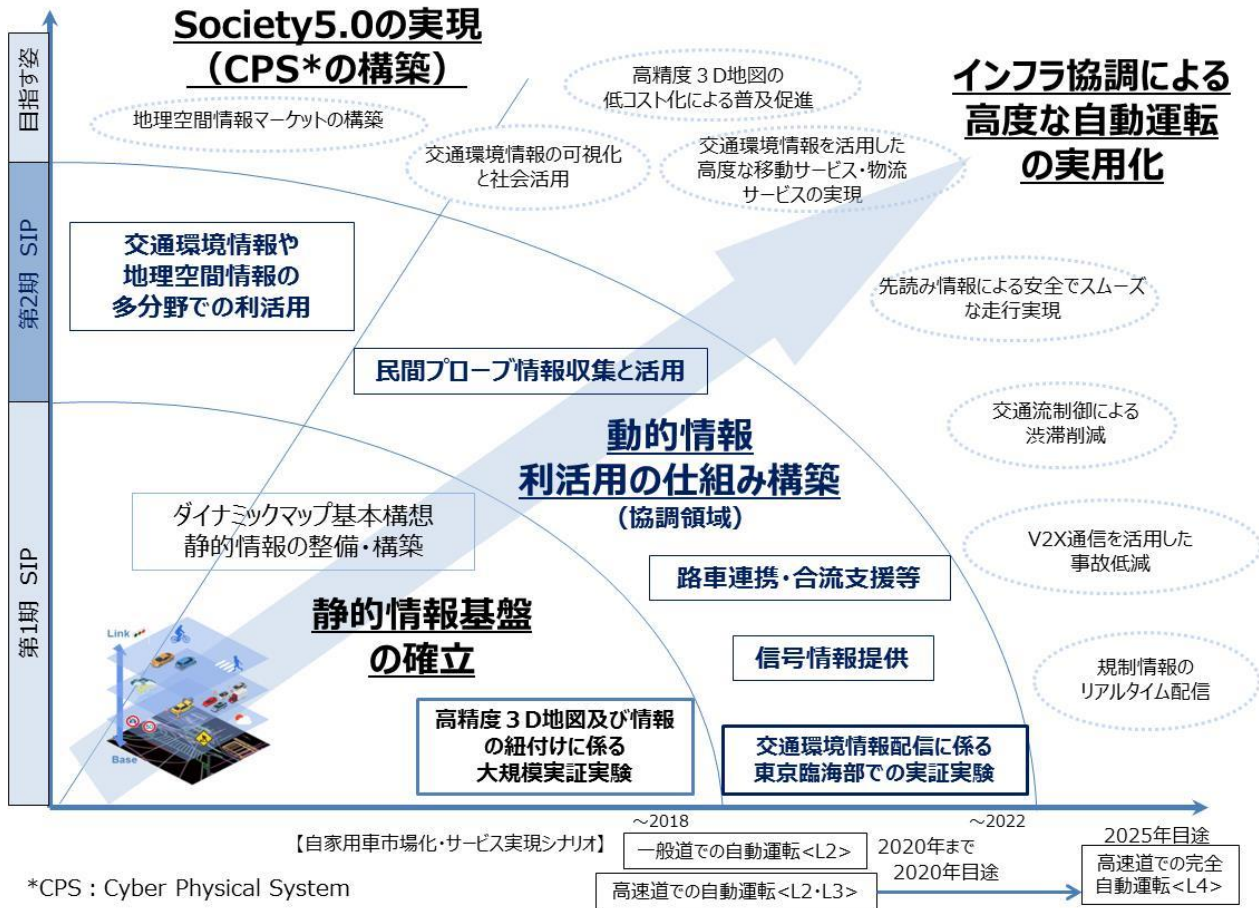
実用化・  
事業化実証

域内物流手段、市民の足として、  
**事業化を見据えた長期**の公道実証実験





# 交通環境情報の構築とSociety 5.0の実現





**Thank you**

